

PECCO VOL.62

2023.2

フリーペーパー ペッコ

1920
大正9年



岩手県立図書館は、
原さんにもらった
1万円から始まったよ。

原さん、
ありがとう。



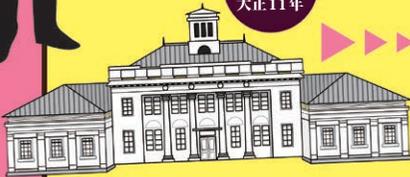
原敬首相が北田親氏盛岡市長に宛てた書簡（当館所蔵）

「書庫だけは
とにかく広く」
って書いてあるよ。



原さん

1922
大正11年



にぎわってるねえ。

「こまどり号」

1959年
自動車文庫巡回開始



伝説の
カモシカさん…?!



来ちゃったよ

今に続く
「啄木・賢治資料展」は
1974年から始まりました。

1968
昭和43年



閲覧室



今は
「もりおか歴史
文化館」に
生まれ変わったよ。

石川さん



もう35回も
やってますよ。

2006
平成18年



ユースコーナー

101年目
はじめました。

2023
令和5年



ミニシアター



これからも
よろしくね！



図書館探検記 その27
そめちゃんがゆく!



岩手県立図書館創立100周年

3代目館 書庫見学ツアー!

初代館から順番にその時代の豆知識を紹介してきたシリーズもいよいよ最後! 3代目にあたる現在の県立図書館は、その昔、原敬さんがアドバイスしてくれたとおり、いろいろな種類の書庫が充実しています。そこで今回は、紙面での見学ツアーを実施! そめちゃんと一緒に豆知識を増やしちやおう!



2006年
開館!

平成 18年4月1日
開館日 ▶ 建設着手日 平成 15年3月20日
全面開館 ▶ 平成 18年5月8日

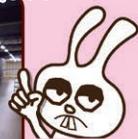
いわて県民情報交流センター(アイーナ)内に
新県立図書館として開館しました。
当時の蔵書数は約 625,000 冊でした。



集密書庫

広さはなんと
1500㎡!
って
言われてもねえ?

岩手県立図書館で、最もたくさんの本がある書庫です。最大で83万冊を収蔵することができ、本棚は全部で553架あります。



バスケットボールのコート、
およそ4面分ですわから。

電動で動く書庫で、重い本棚がスイッチひとつで動きます。気温や湿度も1年を通して一定に保たれ本に快適な環境を維持しています。

古文書や絵図
約1万4000点 収蔵!

貴重書庫

盛岡藩時代の絵図や古文書など、昔の本が収められています。さらには、宮沢賢治と石川啄木の初版本も収められ、貴重な郷土の資料が入った金庫のような部屋です。

初版本

『春と修羅』
宮沢賢治 著



初版本

『あこがれ』
石川啄木 著



貴重書庫入り口

扉の厚さ
20cm

ここには、
ずっと昔の岩手の様子が
知れる、金銀財宝にも勝る
図書館の宝物が入ってるわけ。



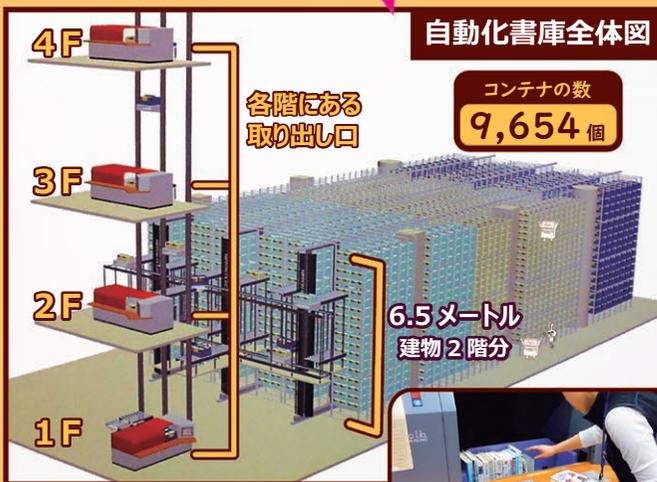
貴重書庫内部

ちなみに
土足厳禁だよ!!



自動化書庫

収蔵可能冊数
約40万冊



自動化書庫全体図

自動化書庫の高さは6.5メートル程あり、建物2階分と同じ高さです。資料はすべてコンテナに入っており、ベルトコンベアーに乗って運ばれてきます。コンテナの格納場所や、どの本がどのコンテナに入っているかなどの情報は、すべてデータベース化して管理しています。



自動化書庫内部

本はサイズで
仕分け!

自動化書庫の本は、皆さんが利用する3階フロアのように、本を「内容別」に仕分けるのではなく、「サイズ」ごとに仕分けています。



なぜ?
WHY?

限られたスペースの中で
無駄なく本を
保管するためだよ。



取り出し口

本の出し入れは
各階でできるんだよ!



1つのコンテナには
10~30冊程度収納可能!



サイズを揃える
収納の基本じゃない?



郷土書庫

3階郷土カウンターの奥にある書庫で、
岩手に関する本や調査報告書を収めています。



現在の収蔵数
約8万5000冊

お客様から希望があったらすぐ取りに行けるよう、人気の高い「小説」や「歴史」の本を所蔵しているのも特徴だよ!



郷土の生んだ代表的な文学者、宮沢賢治と石川啄木に関する資料を、「賢治文庫」「啄木文庫」として所蔵しているのもこの書庫です。



ココが
POINT!!

入り口を守る分厚い鉄の扉は厚さ20cm! 消火設備は本を濡らさないようガス式!
窓はなく、温湿度は年間を通して一定! 人の動きを検知するセンサーもあり!

おすすめ新着郷土資料【2022年10月-12月新着分】



季節のめぐり

小岩井農場 小坂富男写真集

小坂富男 著／川口印刷工業 出版

2006年から16年間、小岩井農場の写真撮影に携わっている小坂富男氏。彼の作品は小岩井農場のカレンダーやポスターに広く活用され、多くのお客様に農場の世界観や魅力を伝えてきました。広大な山林と牧草地、農場に咲く花、牛や羊たちの姿などを、四季に分けて構成した写真集です。



天国への電話

ラウラ・今井・メッシーナ 著
粒良麻央 訳／早川書房 出版

亡くなった人と心が通じ合えるという「風の電話」。東日本大震災で母と娘を失ったゆいは、大槌町にある電話ボックスを訪れる。そこで彼女は妻を病気で亡くした毅と出会い、親交を深めていくが……。実在する「風の電話」を通じ、喪失の痛みから癒えていく人々をイタリア人作家が描いた長篇小説です。



堀越千代 自営の心 日本女子教育の先駆者

岩手日報社 出版

明治30年に女性の自立・自営のために、和洋裁縫女学院を創設した盛岡市出身の堀越千代。彼女の日本女子教育の先駆者としての生涯と功績が描かれています。昨年11月に行われた特別対談のほか、千代本人による「論説講話」の一部も収録。『岩手日報』の連載に新たな資料写真等を追加し書籍化。



新渡戸稲造に学ぶ 近代史の教訓

草原克豪 著／芙蓉書房出版 出版
名著『武士道』の著者として広く知られている新渡戸稲造。従来の評伝では書かれていない「植民学の専門家として台湾統治や満洲問題に深く関わった新渡戸稲造」に焦点が当てられた新渡戸論です。彼の生涯と日本近代史の流れを辿りながら教訓を学び、戦後日本の問題点と今後の歩む道を考えます。



大滝詠一 VOL.2 レコーディング・ダイアリー

堀内久彦 著／リットーミュージック 出版
多くのヒット曲を世に送り出した岩手出身のシンガーソングライター、大滝詠一。そんな彼が作り上げた1979年～1982年までの主要楽曲を対象に、ダイアリー形式で追った記録集です。他にも関係者によるコラムやレコーディング用語解説、当時のレコーディング風景を写した写真なども収録されています。



賢治ラビリンズ 夜の川のほとりのゴーシュ

金成陽一 著／彩流社 出版
「セロ弾きのゴーシュ」「毒もみのすきな署長さん」「オッペルと象」……。幅広い分野にわたる賢治作品には、アンデルセン童話やグリム童話といったヨーロッパ文学の要素が見られます。ドイツ文学者である著者が以前から気になっていた作品を取り上げ、比較文学論的に賢治童話を読解していきます。